

① 組織的な学校運営

小松市立国府中学校長 中村 茂

	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	備考
1	〈組織的な学校運営の体制〉 運営委員会をはじめ各委員会や部会が計画的に設定され、縦横の連絡調整が図られた中、相互の協力を活かした取り組みを進めていく。	【努力指標】 各委員会・部会の開催が計画どおり開催され、組織的な学校運営が進められる。	各責任者のもと、学校全体が組織的・機能的に動いていると感じる教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：70%未満	・教職員アンケートの結果は100%。月の行事予定に運営委員会を入れ、毎月開催することができた。各学年、各分掌からの提案を検討し、縦横の連絡調整が図られた。
2	〈職員の研修・研鑽〉 講師を招聘し、一人一回以上研究授業を実施し、校内研修会を行う。夏季休業中を中心に各種研修会に積極的に参加し、研鑽に努める。	【努力指標】 一人一回の研究授業を設定し、校内研修会の活性化を図るとともに、各種研修会に積極的に参加する。	研究授業を実施するとともに夏休み等に各種研修会に積極的に参加する教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：70%以上 D：70%未満	・1学期に研究授業を行った教員は要請訪問時の4名。夏休み中の各種研修会へは、すべての教員が申し込んでいる。
3	〈安心して学べる教育環境〉 総合的な学校安全計画を教職員に周知するとともに、定期的な危機管理訓練を行うことで、災害や事故等の発生時に適切な対応・連絡体制をとることができるようにする。また、登下校時の交通安全指導やマナー指導は、機会を逃さず年間を通して継続的に取り組む。	【努力指標】 生徒及び教職員の危機管理訓練が定期的かつ計画的に行われ、適切な対応・連絡体制がとれる。	危機管理訓練及び交通安全指導が継続的かつ効果的に行われ、成果が表れていると感じる教職員の割合が A：100%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	・1学期には、地震を想定した避難訓練を実施した。東日本大震災を受けて、訓練時の心構えや机の下に頭部を隠す重要性について改めて職員・生徒に確認した。教職員アンケートでは94%の職員が学校安全の指導に心がけているとしている。
課題と方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年までに定着した、毎朝の校長・教頭・教務の打合せ、週1回の生徒指導部に加え、今年度は運営委員会を月行事予定に明記し開催すること、週1回相談部会を開催することを決め、1学期は達成することができた。一方で、研究推進委員会、古典委員会の回数は少なかった。2学期の勸進帳公演に向け、これまで以上に職員の意志の疎通を図るため、より効率的な校務の運営を目指す。</li> <li>・夏休み中、小松市教委主催の研修会はもちろん、他都市の研修会にも積極的に参加している。8月29日には講師を招いて、Q Uをテーマに校内研修会を行う予定である。また、2学期中に残りの12名の教員が研究授業を行う予定である。</li> <li>・東日本大震災を受けての避難訓練により、職員や生徒の防災意識や避難時の意識は向上していると思われる。今年度の管理運営計画に各種災害時に出される警報を確認する重要性と津波発生時の対処について記載した。今後は保護者に生徒を引き渡す手はずや原発事故への対応についても検討する必要があると考えられる。2学期は火災時の避難訓練を予定している。</li> <li>・交通安全については、4月に交通安全教室を全校生徒対象に実施しており、生徒自身の交通安全に対する意識も高い(91%)が、保護者から見た目(学校は適切に指導を行っているか)が若干低い(危機管理も含め88%)ので、実情を的確に捉えて生徒指導部とも連携し、指導を行う必要がある。</li> </ul>			

② 確かな学力の育成

1	〈生徒の主体的な学びの追求〉 生徒の主体的な学びのある授業づくりを追求するために、言語活動の充実を踏まえた思考力・判断力・表現力を育成する場を設定した授業改善プランを策定し、学び合いのある授業づくりに取り組む。	【成果指標】 言語活動を取り入れた授業計画と学び合いのある授業構成を考えた授業づくりに取り組める。	目指す授業づくりへの授業改善や指導力向上への取り組みを進めている教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	・教職員アンケート項目「学びのルール」「指導法の工夫」「言語活動、学び合いの授業づくり」のどの項目も90%以上の教職員が取り組むことができた。
2	〈家庭学習の習慣化〉 自主学習ノートの効果的な使い方の指導や継続することの価値付けを行う。学担と教科担当の連携を積極的に行い、適切なアドバイスをしていく。また、点検の際に成熟感や意欲を持たせるコメントなどを記入する。	【成果指標】 毎日、家庭学習を継続的に取り組むことができ、宿題や自主学習ノートの提出ができていく。	毎日、継続して自主学習ノートに取り組む生徒の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	・教職員の記録より、1学期中に毎日継続して自主学習ノートに取り組む割合は、90%であった。 ・複数の教員の自主学習のアドバイスを記載したプリントを生徒及び保護者に配布し、学習内容の充実を求めた。
3	〈学力向上プランの推進〉 基礎的基本的な知識・技能の確実な定着や、知識・技能を活用するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を図り、目指す生徒像への達成を追求する。	【成果指標】 学力向上プランであげた「目指す生徒像」への数値目標を達成することができる。	目指す生徒像に結びつくアンケート結果の平均数値が A：90%以上 B：75%以上 C：50%以上 D：50%未満	・生徒アンケートでは「活用」が67%、「表現」が77%、「積極的な学習」が76%、「家庭学習1時間以上」が49%で、平均67%であった。
課題と方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校研究では学力向上に力を入れた。学力向上プランを参考にして、授業の中で生徒の主体的な学びにつながる取り組みを具体的に実践するなど、どの教師も授業改善に意欲的である。多くの教職員から、授業改善や学習法について効果を上げるアイデアを集め、実践していくことで更に成果を上げていきたい。</li> <li>・現在、家庭学習に毎日取り組めていない生徒には、学年単位で対策を講じ、その生徒に応じた対応を行っている。また、家庭での取り組みを毎日、「どの時間帯に」「どのくらい」「どの場所で」という約束を家庭内で行うことを生徒にも保護者にも推奨していく。</li> <li>・学力向上プランの目指す生徒像の項目で、「習ったことを活用する」と「家庭学習1時間以上」が低い。「活用」については、授業で学習していることが生活に直結している部分が多くあることを生徒に説いていく。また、学びの必要感のある課題、授業内容であるかなど教師が絶えず振り返っていかなければならない。「家庭学習1時間以上」は自主勉ノートのより良い使い方の取り組み、教科の連携による効率のよい宿題の出し方、習熟度別の宿題の出し方など工夫点はまだまだあり、それらを実践していくことで効果を上げていく。</li> </ul>			

### ③豊かな心の育成

1	<p>〈質の高い集団づくり〉 学級を基盤に、それぞれが自己有用感を持ち、互いに学び合い、認め合い、高め合う質の高い集団づくりに取り組む。</p>	<p>【満足度指標】 学年に応じた自覚と責任を持ち、集団の一員として行動がとれる生徒。</p>	<p>集団の一員としての自覚を持ち、質の高い集団づくりのために責任を果たすことができたと感じる生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>・アンケートでは「学校行事や学年行事の中で、自分の役割を充分果たす事ができ、充実感を感じることができた」と答えた生徒の割合は74%で、昨年度と同じ時期より1ポイント上昇した。(1年71%、2年83%、3年68%)</p>
2	<p>〈道徳教育の実践〉 道徳の時間の内容を工夫・充実させ、学校教育活動全体を通じて、道徳的な心情・判断力・実践力を高めていく</p>	<p>【成果指標】 計画的に実践を重ね、積極的な授業研究に努めることで、生徒の道徳的心情の高まりを促す。</p>	<p>人間関係作りや生き方などについて深く考えるようになった生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>・アンケートの結果から、生徒の道徳的心情の向上を図るために工夫し授業実践を重ねている教職員が92%であり、人間関係作りや生き方等について考えるようになったという生徒が66%であった。</p>
3	<p>〈主体的な生徒会活動の推進〉 役員会を中心に、各専門委員会がそれぞれ生徒会の目標にあった一大事業や取り組みを考え、協力しながら日常活動・月別活動に責任を持って運営できるようにする。</p>	<p>【満足度指標】 役員会・各専門委員会が一大事業を考え、分担・協力して自分の役目に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>委員会活動に積極的に取り組めたと感じる生徒の割合が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>・アンケート結果から、全体として昨年度よりも参加できている生徒の割合が高くなっている(70%)。参加できている生徒は2年生が特に高く、1・3年生がやや低いが、3年生は昨年度2年生時に50%台だったものが上昇していた。</p>
4	<p>〈信頼関係の構築〉 Q-Uテスト分析、「我が子のよいところ」、ふれあい週間等の面談の活用、特別に支援が必要な生徒への配慮、教育活動全体でのふれあい(日頃の声かけ)など、積極的な生徒理解と支援に努める。</p>	<p>【努力指標】 年2回のQ-U実施と分析や面談、校内研修での情報交換を通じて生徒理解、生徒との関係づくり、支援に努める。</p>	<p>面談や家庭訪問、日頃の声かけ、教育活動などを通して生徒理解に努め、生徒と良好な関係が築けていると感じている教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>・アンケートの結果から、生徒が学校での活動にいきいきと意欲的に取り組んでいると考える教職員が多かった。生徒が元気よく活動的であるのは、学校に対する安心感、信頼感が根底にあると考えられる。生徒を褒めるよう心がけている教職員は100%、保護者からの相談に適切に応じようとする教職員100%。悩みを相談できる人がいる生徒は75%で、昨年同期より11ポイント高い。</p>
課題と方策	<p>・学校行事の運営の中心となる3年生の意識を上げる必要がある。2学期の運動会や文化祭では、生徒の主体性を重視し、彼らが充実感を感じることができる企画運営を図っていきたい。 ・アンケートの結果から、学年が上がるごとに人間関係作りについて悩んだり考えたりすることがわかる。自他の生命を尊び豊かな感性と温かい人間関係を築くために、今後も24の内容項目を意識して毎週の授業実践を重ねていきたい。 ・昨年度よりも全校生徒が生徒会活動を計画し運営するものだという意識や自覚が高まってきている。また、教師にも生徒主体で計画・運営ができるように工夫する意識が高まってきている。3年生の一部には以前よりも積極的に行事に対する意見を持ったり、今までにない活動を計画したいという思いが高まってきている。この思いを実現できるよう教師側のフォローが特にこれから必要だと考えている。 ・教師はQ-Uや面談を中心に教育活動全体を通して、生徒とのよい人間関係作りを努めている。Q-Uの分析結果からどのような学級集団であるかを把握し、生徒一人ひとりの状況を理解したうえで、具体的な支援を行っている。保護者アンケートの、先生方は「問題にきちんと対応」は74%、「良いところを適切に評価」は78%、「相談に適切に応じる」は74%とこれまでより上昇傾向が見られる。今後、学年会、生徒指導情報交換会、相談部会等の対応検討会の中で具体的なサポートのあり方、教職員の連携の仕方、関係機関との連携の仕方、具体的な支援法を多く持つこと等、生徒理解と信頼関係の構築のために更なる向上を図りたい。</p>			

### ④健やかな体の育成

1	<p>〈健全な心身の成長〉 保健行事や授業等を通して、生徒が自分の健康問題に気づき、心身の健康に対する自己管理能力を向上できるように努める。</p>	<p>【成果指標】 生徒が自分の健康に関心を持ち、疾病の予防や治療に努めようとする。</p>	<p>疾病の治療率が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>・1学期末での治療率や精密検査受診率は61.5%である。昨年度より1学期に歯科衛生士を招き、正しい歯の磨き方についての講習を受けている。</p>
2	<p>〈体力アッププランの実践〉 新体力テストの結果を踏まえ、課題を持って取り組む。特に今年度は新2年生の総合的な体力の向上に着目したい。また、本校全体の課題である柔軟性と腹筋運動についても毎時間、補強運動を取り入れ改善を図りたい。全体には運動量を確保し、生徒が充実感を味わえる授業の展開を工夫していきたい。</p>	<p>【満足度指標】 個々に応じた目標を持って意欲的に参加し、技能向上を目指す。</p>	<p>意欲的に参加し、楽しいと感じる生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>生徒アンケートでは、意欲的に活動できて楽しい85%、真剣に取り組んでいる89%で昨年とほぼ同じ結果であった。3年生の結果が若干低く水泳の見学が影響したと思われる。</p>
課題と方策	<p>・治療に関しては、夏休み期間を利用して治療や検査が完了できるように、個人懇談の機会を利用し保護者への働きかけを行った。1学期末の生徒アンケートでも「病気は早めに治すように心がけている」生徒の割合が81%だったので、2学期初めに完了状況を確認すると共に、個別に働きかけていきたい。また、自己管理し予防することが有効なので、今後も自己管理能力を向上できるように働きかけていきたい。昼休みに歯みがきをする生徒も少しずつ増えている。 ・新2年生は昨年度の体力テストの結果が、8種目中男子は4種目で、女子は5種目で全国平均を下回ったため、1年間これを意識した取り組みを進めてきた。その結果、男子では下回った種目が2種目になり、一定の成果が見られたが、女子には大きな変化が見られなかった。全学年を通じて、全国値を下回る種目があり総合的な強化が求められる。特に、長座体前屈や反復横跳びのデータが全国値を下回り、それらに関連する動きづくりを多く取り入れていきたい。</p>			

⑤ 家庭・地域との連携

1	<p>〈家庭との連携〉 生徒への指導や保護者からの相談などに誠意を持って適切に対応し、家庭との連携を深め、良好な関係のもと教育活動の成果をあげていく。</p>	<p>【満足度指標】 保護者が、教職員は誠意を持って生徒に接し、適切に対応しようと努めてくれていると感じる。</p>	<p>関連した保護者アンケートの結果が総合して A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>保護者アンケート「生徒指導上の問題にきちんと対応」「不安や相談に適切に応じる」はどちらも74%で、昨年同時期よりそれぞれ2ポイント、5ポイント上昇した。</p>
2	<p>〈地域人材等教育資源の活用〉 教育力の高い地域の特性を生かし、教育活動の中に地域の人材や教育資源の活用を図っていく。</p>	<p>【満足度指標】 授業や学校行事などに、地域の有用な人材や教育資源の積極的な活用を進める。</p>	<p>地域の人材や教育資源を活用した回数が学期に A：12回以上 B：10回以上 C：8回以上 D：7回未満</p>	<p>・1学期は、各学年とも総合的な学習の時間を中心に地域の人材を積極的に活用し12回を大幅に上回る事が出来た。</p>
3	<p>〈情報公開〉 学校理解のため積極的な情報公開に努めたり、地域の学校という観点のもと、地域や保護者との関わり合いについての情報を発信し、信頼される学校作りを目指す。</p>	<p>【努力指標】 HPを積極的に更新し、学校でのできごとや学校評価に関わる情報、地域との関わり合いについての情報を積極的に掲載する。</p>	<p>ホームページの更新頻度が A：1ヶ月に2回以上 B：2ヶ月に3回以上 C：1ヶ月に1回以上 D：1ヶ月に1回未満</p>	<p>・月予定や年間行事計画の定期的な更新や校長だよりや教頭徒然草でのトピックス、トップページの写真掲載などその都度更新しており達成している。</p>
課題と方策	<p>・これまで通り、「生徒の間違った行動はあやふやにせずきちんと指導し」、「子どものことについての相談に真摯に応えよう」と努力していく必要がある。さらに、問題への対応に関して、学年や学校全体が組織として機能的に当たっていくことが肝要である。 ・1学期は、1年では「お話宅配便」「インタビューについての講演会」「ふれあい体験学習」2年では「働く人に学ぶ会」「職場体験学習」3年では「勸進帳の練習」の活動で地域の人材を活用することができた。回数は3学年合わせて19回だったが、活用出来た地域の人材の延べ人数は58人にも及んだ。2学期も、出来るだけこの活用状況に近いものを維持したい。 ・ホームページでの写真などの公開については、今年度は4月当初に保護者へ『学校から発信される文書(学年だより・校誌など)やホームページでの氏名や写真などの掲載ルールの提示と承諾』を行った。ほとんどの保護者に学校の情報公開のルールを承諾された結果を受け、ルールに基づいた情報発信を守っていきたい。</p>			